



## 産業廃棄物処理計画実施状況報告書等提出シート

下記 1 の書類について、別添のとおり提出します。

### 記

1 提出書類 ＜該当を選択＞	<input checked="" type="checkbox"/> 産業廃棄物処理計画書 ( <del>PDF</del> ・ 書類 1 部 ) <input checked="" type="checkbox"/> 産業廃棄物処理計画実施状況報告書 ( <del>PDF</del> ・ 書類 1 部 ) <input type="checkbox"/> 特別管理産業廃棄物処理計画書 ( PDF ・ 書類 部 ) <input type="checkbox"/> 特別管理産業廃棄物処理計画実施状況報告書 ( PDF ・ 書類 部 )
2 提出者	(住所) 〒660-0832 尼崎市東初島町 3 番地  (名称・代表者氏名) 今津生コン株式会社 代表取締役 永田 克也
3 対象事業場	(所在地) 〒660-0832 尼崎市東初島町 3 番地  (名称) 今津生コン株式会社  (事業場コード(6桁)) 925016
4 事業場データ	(業種コード(4桁)) 2122  (業種名) 生コンクリート製造及び輸送  (フレーム：製造業は製品出荷額、その他は従業員数)  出荷量 33842.88 m <sup>3</sup> 従業員 10 人
5 ご担当者	(所属) 製造課  (氏名) 米澤 孝司  (電話) 06-6489-3801 (FAX) 06-6489-3804  (E-mail) imazu@ked.biglobe.ne.jp

(その他事業所)

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6 月 21 日

尼崎市長 殿

提出者 今津生コン株式会社

住所 尼崎市東初島町3番地

氏名 代表取締役 永田 克也

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6489-3801

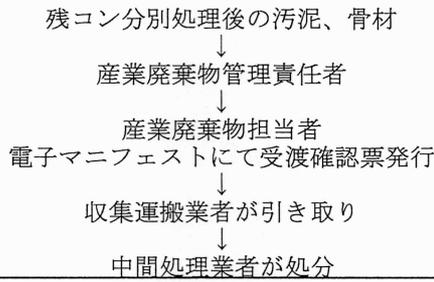


廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	今津生コン株式会社
事業場の所在地	尼崎市東初島町3番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	生コンクリート製造及び輸送
②事業の規模	年間出荷量 令和4年度 33842.88m <sup>3</sup>
③従業員数	10人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	生コンクリート製造出荷⇒現場納入⇒残コンクリートの発生⇒工場へ持ち帰り後、処理機にて骨材とスラッジ水に分別。 スラッジ水はフィルタープレスで上澄水、汚泥に分別する。 上澄水は生コン練り水、洗車水で使用。 汚泥は天日乾燥後、骨材と一緒に中間処理委託業者にて処分する。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	排出量	2837.88 t	306.26 t
	(これまでに実施した取組) 顧客（現場）と打ち合わせをし残コンが出ない様 願います。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	排出量	1000.00 t	100.00 t
	(今後実施する予定の取組) 顧客（現場）と打ち合わせをし残コンが出ない様 願います。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 鉄くずは保管し、産廃業者にて処分。 資源ごみの分別。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 産プラスチックなど産廃の分別を進め、回収箱を設置し 産廃業者に委託する。

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
	【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
①現状	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
	【目標】		
	②計画	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		0.00 t	0.00 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		0.00 t	0.00 t
(今後実施する予定の取組) 該当なし			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	全処理委託量	2837.88 t	306.26 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	再生利用業者への処理委託量	2837.88 t	306.26 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
(これまでに実施した取組) 再生利用者へ全量委託する。			

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0200 汚泥
	全処理委託量	1000.00 t	100.00 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	再生利用業者への処理委託量	1000.00 t	100.00 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t
	(今後実施する予定の取組) 前年度と同じく再生利用業者へ全量処理委託する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。